

歴史・文化班



2023.2.15



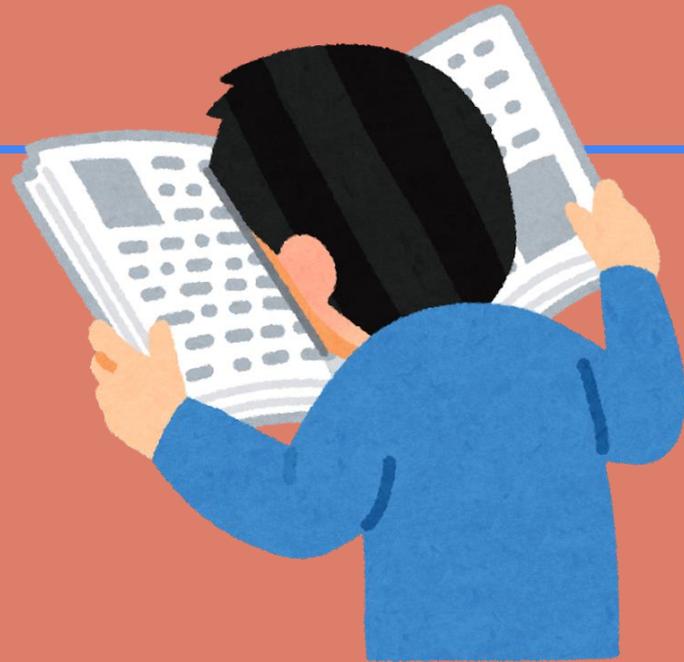
調査①

調べたこと：荒尾の歴史文化について

方法：インターネット

分かったこと

- ・ 万田坑に炭鉱列車が今後展示されること
- ・ 四ツ山神社と野原八幡宮についての概要
- ・ 荒尾市には古墳があったこと、古墳の概要



まず私達は、荒尾の歴史文化についてインターネットを使って調べました。調べてわかったことは、万田坑に炭鉱列車が今後展示されることです。また、四山神社と野原八幡宮について調べた結果、四山神社は延久（えんきゅう）2年(1070年)に建立され、とても長い歴史があることも分かりました。野原八幡宮の野原八幡宮風流が令和4年に無形文化遺産に登録されており、それについても調べました。最後は古墳です。なんと、荒尾には古墳が三個もあったのです。別当塚古墳群と亀原古墳、三の宮古墳などがあることを初めて知りました。

調査②

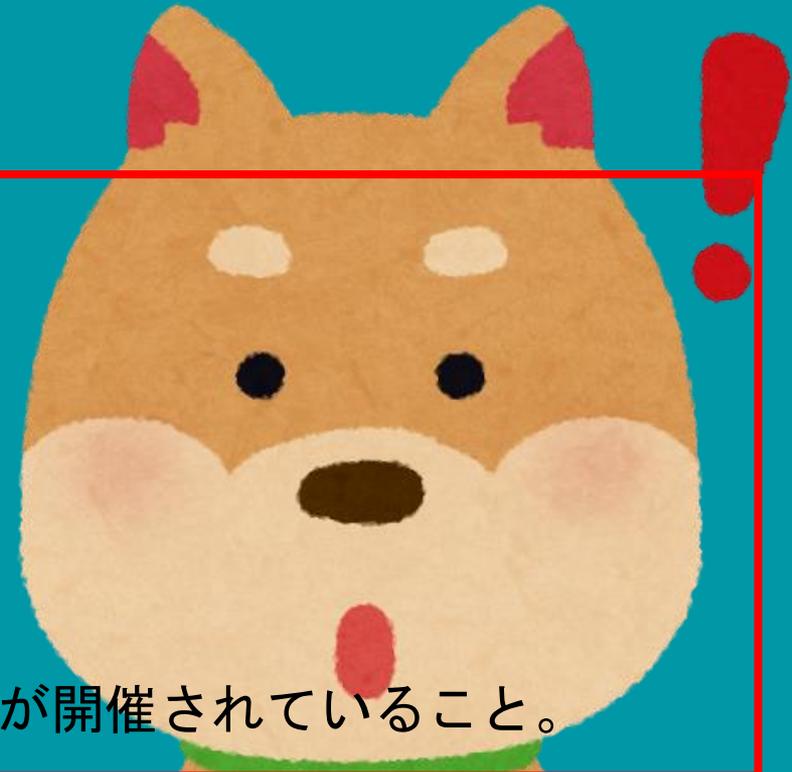
調べたこと：荒尾の地域のイベント

方法：インターネット

分かったこと

- ・ 荒炎祭が完全に廃止になっていたこと。
- ・ 万田坑では春、夏、秋と定期的にイベントが開催されていること。

次に荒尾の地域のイベントについてインターネットで調べました。調べてわかったことは、荒炎祭という荒尾で長らく開催されてきた祭りが、悲しいことに2021年に廃止されていたことです。一方で、万田坑では春、夏、秋と定期的にイベントが開催されていて、平均3000人も来場していることがわかりました。このイベントは荒尾の魅力の一つと言えそうです。しかし、万田坑の年間来場者数は、平成27年世界遺産登録時の11万人と大きく増加して以降は、4万人前後で推移しており少しずつ減少しています。



考えたこと



クリスマスのイベントを企画することで、荒尾近隣の住民にとっての魅力の一つにしたい！！！！

万田坑では春、夏、秋のイベントはあるけれど、冬のイベントが開催されていませんでした。そこで私たちは、万田坑でクリスマスのイベントを企画することで、荒尾近隣の住民にとっての魅力の一つにしたい、また、人々の万田坑に行く機会を増やしたい、と思いました。

テーマの再設定

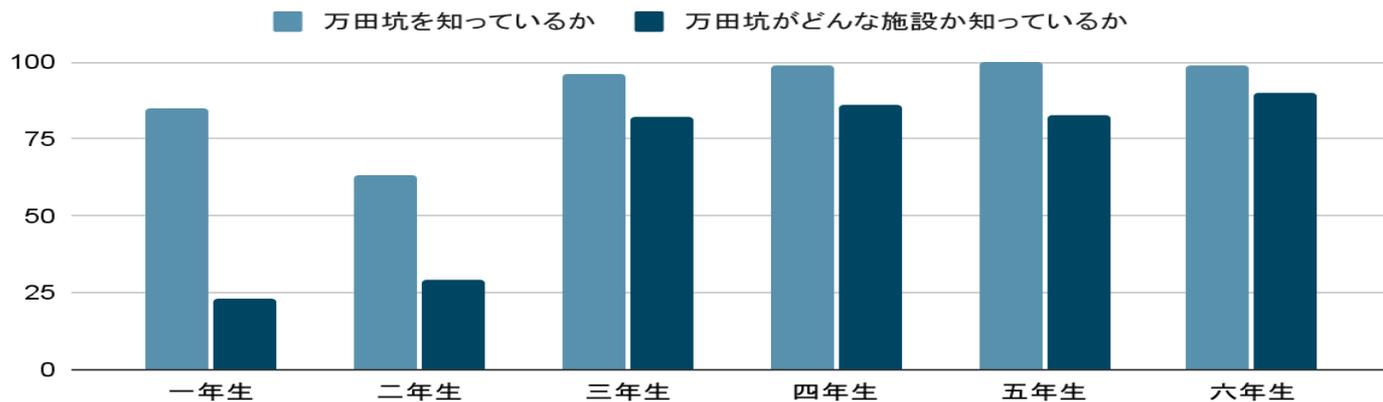
- ・「万田坑でクリスマスイベント」は、自分たちで行うのは難しそうだと考えた。
 - ・野原八幡宮が文化遺産になった新聞記事を見て、文化を伝えていくということが大事だと知った。
- 荒尾の世界遺産である万田坑について、市民に伝えていきたいと考えた。

しかし、その後考えた結果、自分たちの力でクリスマスイベントを開催することは難しいと考えました。野原八幡宮が文化遺産になった記事を見て、文化を伝えていく人たちがいることの大切さについて考えました。私達は、万田坑について、歴史や魅力などを後世に伝えていきたいと思いました。



小学校にアンケートをとりました

Points scored



アンケートから分かること

一、二年生と三～六年生で万田坑への理解度が大きく変わることがわかる。

自由記述欄の8割が「石炭が取れる場所」だった

テーマが万田坑に決定しました。私達は万田坑といえば、小学校のときの学習の思い出が強かったので、まず、小学生に万田坑についてのアンケートを取りました。やはり一、二年生はまだ万田坑についての学習をしていないこともあるからか、万田坑のことは知っていても、どのようなことをしていた施設なのか知っている割合は、全体の30%にも満たないということが分かりました。それに対し三年生になると全員が万田坑へ社会科見学に行くため、80%以上という結果になっています。加えて、自由記述欄にはほとんどの生徒が「石炭がとれる場所」と書いていました。

万田坑ステーション Information Center

明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業
世界文化遺産
三池炭鉱万田坑

万田坑

実際に万田坑へ行きました。

<http://drive.google.com/file/d/12rKHOiS25p9fdJjfCysl2a1h2v7-j7qe/view> 動画へのリンクです。



万田坑の見学をして、ガイドの方の説明を聞くうちに、当時万田坑で働いていた方々の命懸けの思いが伝わってきました。



炭鉱に従事していた方々はいつ事故にあうか分からない状況の中で、家族や生活のために働いていたということが分かり、危険で、かつ、重労働であるこの仕事をしてきた人たちがいたからこそ、日本の経済が支えられていたということを知りました。



そのことを知り、私達の活動でもっと万田坑のことを伝えていきたい、そうすることで、荒尾のみながさらに万田坑に誇りを持てるのではないかと考えました。

万田文化遺産
明治日本の産業革命遺産
7日



万田坑ステーション
Information Center

今回万田坑で改めてガイドさんの話を聞いたことで、小学生のときに来た時にはわからなかったことも詳しく知ることができました。

<http://drive.google.com/file/d/1G4IL1g3gqzvkJFYEXSy3gqAcD68MH68J1/view> 動画のリンクです。

考えたこと

何の文化について扱うか

世界遺産である、万田坑について

誰に伝えるか

小学校3、4年生

何を伝えたいか

万田坑での人々の暮らし

どのように魅力を伝えるか

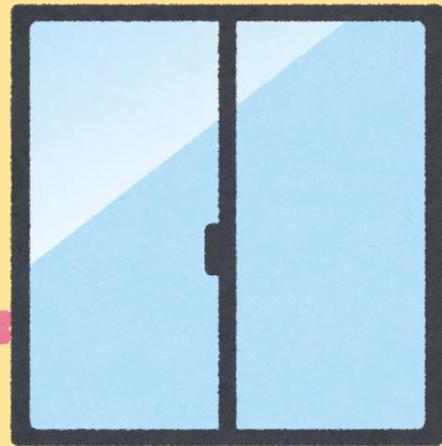
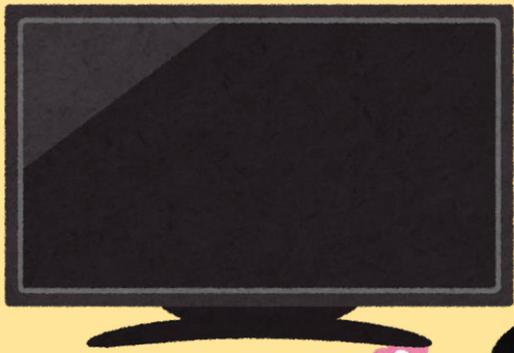
紙芝居



万田坑での学習を経て、万田坑は石炭が取れる場所だということ以外にも、万田坑で働いていた人たちの生活や仕事の様子も知ってもらいたいと考えました。また、さきほどのアンケート結果を見て、万田坑の基礎知識がある3、4年生に向けて伝えるのが最も効果的であり、興味を持ってもらうためにも、紙芝居を通して伝えたいと考えました。

特に伝えたいことは、万田坑で働いていた人たちが命がけで働いていたことです。このことについて児童のみなさんと一緒に考えていきたいと思いました。

これから、紙芝居のストーリーについて説明していきたいと思います。



まず、家で男の子とおばあさんが談笑するシーンから始まります。男の子は社会科の学習で万田坑に行ったことを話します。
すると、おばあさんは「懐かしいわね」と当時の状況を思い出します。



（ここからおばあさんの回想シーン）万田坑の近くには炭鉱で働く方とその家族が住むための集合住宅がありました。

おばあさん（少女時代）は家の近くで弟と遊んでいました。
それをお母さんが見守って家事をしています。



ちち

帰宅



お母さんがお夕飯の支度をしているシーン
外で遊んでいたおばあさん（少女）とその弟が帰ってきて、
やがてお父さんも仕事から帰ってきます。



食事のシーンです。

弟が父に「石炭はたくさんとれたの」と質問をすると、父が少しふざけながら「山ほどとれたぞ！」と答えます。皆で楽しそうに食卓を囲んでいます。



父と弟がお風呂に入ります。
弟が父に炭鉱での仕事について質問をします。



父の炭坑での仕事を説明するシーンです。炭鉱の中はあつくて大変で、危険なのだと父が説明します。ナレーションで父はその後にも炭鉱で働きつづけたこと、当時日本で採掘された石炭のおよそ1割が万田坑をはじめとする三池炭鉱で採掘されたことが語られます。



ある日のこと。万田坑で事故が起きたという連絡が入り、母と祖母は父を心配しておろおろしています。なかなか連絡が取れませんでした。が、なんとか父の無事の連絡が入り、ほっと胸をなでおろします。



回想は終わり、男の子とおばあさんのシーンへ戻ります。
おばあさんの話を聞き、男の子はひいおじいさんは命がけで働き、家族と、日本の経済を支えていたのだということ、そんなひいおじいさんはカッコいい、ということを行います。
そして男の子はおばあさんと万田坑へ行こうと言います。



季節は春です。男の子とおばあさんが万田坑で桜を見えています。
男の子とおばあさんが炭坑列車を見て歓声をあげます。
男の子が「万田坑マルシェのほうにも行ってみようよ」と言います。



男の子とおばあさんがお店の数や来客の多さに驚いています。
おばあさんと男の子は万田坑に人が集まっていることを喜びます。
男の子が「きっとこれからも荒尾の皆は万田坑と寄り添いながら、歩み続けていくんだね。」
と言って終わります。

今後の展望

万田坑のガイドの方に紙芝居の内容をみていただく。

万田小の先生に紙芝居の内容を見ていただく。

紙芝居を作成する。

小学生に紙芝居を実演する。



今後の展望として、万田坑のガイドの方や万田小の先生に紙芝居の内容を見ていただき、紙芝居を完成させ、小学校で紙芝居をしたいと考えています。